

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和 7年10月 1日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
岡山科学技術専門学校		昭和62年10月19日		大月秀之		〒 700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区昭和町8-10 (電話) 086-255-7171	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人岡山科学技術学園		昭和62年10月19日		瀬戸川正彦		〒 700-0032 (住所) 岡山県岡山市北区昭和町8-10 (電話) 086-255-7171	
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程	国際情報学科		令和 5(2023)年度	-	令和 7(2025)年度	
学科の目的							
情報に関する知識・技術を幅広く学び、使いやすく、信頼できる情報システムを構築し、社会の創造に貢献できる実践力のある技術者の育成を目指す。そのため座学でコンピュータ業界への就職に結びつける資格取得のための教育を行い、実習では豊富な時間を使い、より実践的なプログラミング技術教育を行う。							
学科の特徴(取得可能資格、中退率等)							
情報技術全般に関する基本的な事項を理解し、情報技術を活用したシステムの設計・開発・運用を実践する。ITパスポート、基本情報技術者等の資格が目指せる。令和6年度の中退率の現状として①年度当初在籍者数19名、②年度途中における退学者の数1名、③中退率5.3%							
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総	講義	演習	実習	実験
3 年		昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,448 単位時間	340 単位時間	272 単位時間	1,156 単位時間	単位時間
生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)			
90 人		19 人	19 人	100 %			
就職等の状況		■卒業者数(C) : 0 人					
		■就職希望者数(D) : 0 人					
		■就職者数(E) : 0 人					
		■地元就職者数(F) : 0 人					
		■就職率(E/D) %					
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) %					
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) %					
		■進学者数 0 人					
		■その他 (令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)					
		■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生)					
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 受審 年月: 評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL		https://www.oist.ac.jp/					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A: 単位時間による算定)					
		総授業時数				2,448 単位時間	
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				136 単位時間	
		うち企業等と連携した演習の授業時数				単位時間	
		うち必修授業時数				2,448 単位時間	
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				136 単位時間	
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位時間	
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位時間	
		(B: 単位数による算定)					
		総授業時数				単位	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位			
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位			
うち必修授業時数				単位			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位			
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人	
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人	
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				2 人	
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人	
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人	
		計				3 人	
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0 人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は、情報関連業界で活躍できる人材を育成するために、関連企業との連携の下、下記①～⑥の視点に基づき、業界の技術的動向や人材の育成にかかる情報等の収集や分析に努めるとともに、これらを踏まえた学科教育方針(教育課程や学習内容および育成する学生像等)を策定し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目標に専門教育を推進する。

また、教育活動の推進にあたっては、学生による授業評価や管理職による公開授業評価等に加え、関連企業等との協議を通して助言や提言をいただきながら、教育課程に関わる指導内容や指導方法について検証(PDCAサイクル)するとともに、検証結果に基づいて次年度の学科教育方針を策定する。

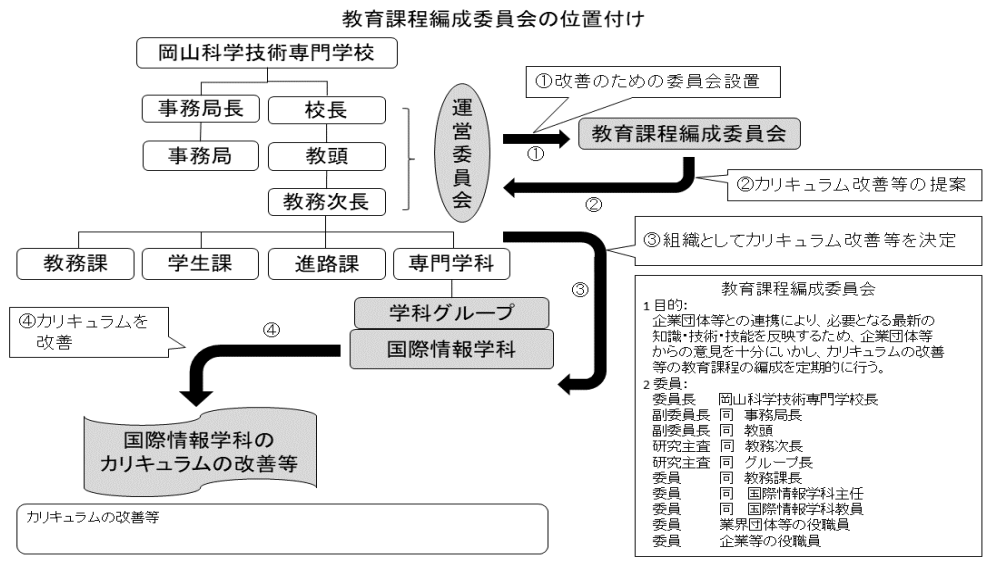
以上が、教育課程の編成に係わる企業等との連携の基本方針である。

- ① 地域における情報関連業界の動向について
- ② 情報関連業界において人材に求められる専門性の動向について
- ③ 求められる実務に関する知識・技術・技能・資格等について
- ④ 情報関連業界が求める人物像について
- ⑤ 情報関連業界における人材育成について
- ⑥ ソフトウェア開発に関わる指導プログラムについて

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、学園組織図の「職業実践専門課程推進委員会」の下部組織として位置づけ、下図に示すように①運営委員会の指示の下、基本方針に基づき企業関係者等から意見を聴取するとともに、現行教育課程の検証を行い必要に応じて②運営委員会に教育課程の改善等を提案する。③運営委員会において提案が妥当であると決定した後は、④情報システム学科の学科教育方針の見直しを行い、座学および実習の指導内容等の改善を図る。なお、年度末の教育課程編成委員会においては改善後の評価等を実施するとともに、翌年度の教育課程の編成にいかす。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
大月 秀之	岡山科学技術専門学校 校長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	
小野 裕明	岡山科学技術専門学校 事務局長	〃	
平野 裕久	岡山科学技術専門学校 教頭	〃	
津田 恵美	岡山科学技術専門学校 教務次長	〃	
横内 美穂	岡山科学技術専門学校 第1グループ長	〃	
小野 英樹	岡山科学技術専門学校 国際情報学科 主任	〃	
岡本 茂樹	岡山科学技術専門学校 国際情報学科 教員	〃	
土井 迪弘	岡山科学技術専門学校 国際情報学科 教員	〃	
楠戸 國正	一般社団法人システムエンジニアリング岡山 事務局長	〃	①
山本 恭久	株式会社アイアットOEC 総務グループ課長	〃	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

② 学会や学術機関等の有識者 ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員		
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回(5月～7月、2月～3月) (開催日時(実績)) 第1回 令和6年7月3日(水) 13:30～14:50 第2回 令和7年3月6日(水) 10:00～11:15		
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記 【提言】 ① オープンソースのデータベースコミュニティに学生が参加しアドバイスを受けた方がよい。 ② 資格はないよりはある方がよいが、コミュニケーション力が重視される。採用は面接で決まるので、強化したほうがよい。 ③ 企業で使われているシステムの実態を考えJAVAを取り入れた方がよい。また、今後主流になる可能性が高いRUST言語を取り入れてもよい。就職時にアピールポイントとなる。 【活用・改善】 第2回教育課程編成委員会において、第1回教育課程編成委員会における提言の改善状況を説明し、令和7年4月以降の教育課程の方針を以下のように決定した。 ① 学生が自由に使えるPCを設置する。 ② スマホは今や勉強の必需品となっている。日本語をひらがなで読むためのツールである。授業効率を上げるため学生にスマホの利用を認めた。ただ、スマホにたより過ぎるといつまで経っても漢字を覚えられないことになるため、メリハリのある使い方を指導する。 ③ 日本語教育をさらに充実させるため、目標とするJLPTの級ごとにクラス分けをする。		
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本学科では、学科教育は学科教育方針に基づき目指す学生像を到達目標におき教育活動を推進している。中でも、実習指導は実学主義の観点から、高度な技術・技能について指導する必要がある、企業との連携は不可欠である。そこで、企業との連携にあたっては、情報関連の業界において高い技術力を有するとともに、知識・技術・技能について指導力があり、技術者としての態度やマナー等の指導にも十分な理解と協力が得られること等を重視し決定する。連携に基づく実習は、科目「HTML/CSS実習Ⅱ」とし、諸条件を満足する企業を選定するとともに、協定書等を締結しこれに則り実施する。以上が企業等との連携の基本方針である。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 ○ 企業の選定と協定:上記基本方針を基に、①専攻分野との関連性が特に高いこと、②知識・技術・技能についての指導力があること、③社会人としての態度やマナー指導等についても協力いただけること等を条件に選定した。その後、事前に実習内容と評価方法の打ち合わせを行い、相互に理解が得られた企業等と協定を締結した。 ○ 連携企業 ワードシステム株式会社 ○ 科 目 名 HTML/CSS実習Ⅱ ○ 連携内容 (1) 期間:2年生の科目「HTML/CSS実習Ⅱ」において、年2回の特別授業を実施する。 (2) 内容:企業等と締結した協定書に基づき情報システム関連の実務に関する知識・技術・技能について学ぶとともに、Web開発の手法からHTMLの書き方までの指導を受ける。 (3) 評価:授業終了後、成果発表を行い、連携企業の担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ担当教員が評価基準に則り、5段階で評価する。		
(3)具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
HTML/CSS実習Ⅱ	HTMLはWebサイト作成やWeb開発などの基盤であり、最も重要なスクリプト言語である。実際の運用における設計の方法から書き方およびWeb開発の手法について学ぶ。	ワードシステム株式会社
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員の研修等については、本校教職員研修規程、ならびに下記(1)、(2)に示す研修項目に基づき、教職員の経験や能力に応じた研修計画を法人の指示の下、教務において作成し学科長ならびに関係教職員に受講させるものとする。受講を命じられた教職員はこれに参加し、専門職として求められる技術力や指導力の向上に努めなければならない。研修成果は、報告書にまとめるとともに、内容によっては受講者が関係教職員に伝達講習し主旨等の徹底を図る。 また、教職員は、日頃より自己研鑽に励むとともに、指導力の向上に向けた授業研究や研究紀要への投稿等に取り組み、以て本学科教育の充実・発展に資するよう努力することを基本方針とする。		
(1)情報関連分野における実務に関する研修等 ① 企業、団体が主催する専門技術研修 ② 企業から講師を招聘した専門技術研修 ③ 専門技術・技能の伝達講習 ④ 教員の技術レベルに応じた専門技術研修		
(2)指導力の修得・向上のための研修等 ① 専攻分野教員 教職課程科目等		

- ① 専修学校教員 教職課程研修
- ② 企業、団体主催の指導力育成研修
- ③ 外部講師による指導力育成研修
- ④ 職務分掌上の業務に関する指導力育成研修

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名: SEO40周年記念 新春セミナー (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和6年1月15日(月)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹)
 内 容: 講演:「Our Common Future」
 NTT 代表取締役会長 澤田 純氏
 IoT、ビックデータ、AIなどによるデータ駆動社会の現実が近づく一方、大量のデータ処理に伴う環境・エネルギー問題やAIの社会への影響などの課題も顕在化している。そのような中で持続可能な社会を実現に向けて我々はどうあるべきか

(2) 研修名: SEO期首講演会 (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和6年6月13日(木)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹)
 内 容: 講演:「Web3.0(ブロックチェーン)がもたらす『新しい資本主義』」
 経済産業省中国掲載産業界 デジタル経済課 総括係長 菊池 雄太氏
 生成AI、量子コンピュータ、Web3.0(ブロックチェーン)、XR(メタバース)等の最先端テクノロジーは、ここ数年で進展を見せてきた。これらの最先端テクノロジーは、ビジネスモデルや人間の生き方等を根底から変えていくことが指摘されている。こうした大変革の時代において、地域経済やビジネスがどのように変革する可能性があるのか、またそれに国の政策がどのように関わっていくのか

(3) 研修名: オープンソースによる画像処理・認識プログラム開発 (Python 編) (連携企業等: 中国職業能力開発大学校)

期 間: 令和6年7月31日(水)、8月7日(水)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹、岡本茂樹)
 内 容: カメラ美装の装置やロボットへと多様な製品・技術に導入されています。
 研修では、カメラで取得した画像について工場管理などのシステム開発や
 機器の制御などの業務への活用を踏まえ、制御するオープンソースの画像処理・認識プログラムが、
 ものづくり現場の改善、効率化にどのように利用することができるのか、どのような可能性を持っているのか。
 研修により深めることができる。

(4) 研修名: SEO40周年記念式典 (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和6年9月24日(火)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹)
 内 容: 「ビジネスエリートは、なぜ落語を聴くのか? ~教養としての落語~」
 春風亭 昇吉氏
 内 容: ビジネスエリートとは、なぜ落語を聴くのか?

(5) 研修名: 2024岡山情報化セミナー (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和6年11月
 対 象: 国際情報学科(小野英樹、岡本茂樹)
 内 容: 第1部 「岡山情報化セミナー」
 第2部 「おかやまIT経営力大賞」記念フォーラム
 ICT業界の著名人によるIT利活用事例の講演と、「おかやまIT経営力大賞」受賞者によるIT利活用の事例発表

② 指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修: 教員研修会「留学生との会話ポイント」(校内)

期 間: 令和6年4月3日(木)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹、岡本茂樹)
 内 容: 留学生に対するやさしい日本語について

(2) 研修: 学生支援会「就職活動に向けて今から実践! 社会人としての心構えとビジネスマナー」(岡田かおり)

期 間: 令和6年9月6日(金)
 対 象: 国際情報学科(小野英樹、岡本茂樹)
 内 容: 就職活動に必要な基本的な心構えとビジネスマナーについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

(1) 研修名: SEO新春セミナー (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和7年1月
 対 象: 国際情報学科(小野英樹)
 内 容:

(2) 研修名: SEO期首講演会 (連携企業等: 一般社団法人システムエンジニアリング岡山)

期 間: 令和7年6月
 対 象: 国際情報学科(小野英樹)
 内 容:

(3) 研修名:2025岡山情報化セミナー (連携企業等:一般社団法人システムエンジニアリング岡山)
 期 間:令和7年11月
 対 象:国際情報学科(小野英樹)
 内 容:第1部「岡山情報化セミナー」
 第2部「おかやまIT経営力大賞」記念フォーラム
 ICT業界の著名人によるIT利活用事例の講演と、「おかやまIT経営力大賞」受賞者によるIT利活用の事例発表

②指導力の修得・向上のための研修等

(1) 研修名:「今から始める就職活動に向けたビジネスマナー」(連携企業等:岡山科学技術専門学校教務部)
 期 間:令和7年9月5日
 対 象:国際情報学科(岡本茂樹)
 内 容:①社会人の心構えについて②服装、あいさつ、マナー

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価は、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、全教職員に実施した自己評価とともに、学校長が作成した自己点検・自己評価の資料を基に、学校運営に関わる部分、教育活動に関わる部分、学科教育活動に関わる部分等について、学校関係者評価委員会において協議し、現状の課題や問題点を洗い出し、改善点等について助言や提言をいただくとともに、運営委員会に諮り緊急性・重要性等の優先順位に基づき具体案を作成する。これを以て次年度の学科教育方針の見直しや学校運営等の改善に取り組むことを基本方針とする。

特に、学科教育については、資格取得や進路状況の他、教育課程編成委員会からいただいた助言や提言に基づく改善点等についても協議し、学科改善の指針とする。

なお、自己点検・自己評価、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく自己評価表、学校関係者評価はホームページ上から公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像 ②学校の特色 ③学校学科の将来構想
(2) 学校運営	①運営方針 ②事業計画 ③意志決定機能 ④人事・給与規程 ⑤情報公開 ⑥業務の効率化
(3) 教育活動	①教育理念に沿った教育課程 ②教育到達レベルや学習時間 ③カリキュラムの体系化 ④授業評価 ⑤成績評価・進級・卒業判定 ⑥資格取得の指導体制 ⑦教員の確保 ⑧教員の資質能力の向上 ⑨教員研修の実施
(4) 学修成果	①就職率 ②資格取得率 ③退学率の低減 ④卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	①進路・就職の支援体制 ②学生相談の体制 ③経済的支援の体制 ④健康管理体制 ⑤課外活動 ⑥保護者との連携 ⑦卒業生への支援
(6) 教育環境	①施設・設備の整備 ②学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修の教育体制 ③防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動 ②教育成果の伝達 ③学納金
(8) 財務	①中長期的財務基盤 ②予算・収支計画 ③会計監査 ④財務情報の公開体制
(9) 法令等の遵守	①法令・設置基準等の遵守 ②個人情報の保護 ③自己点検・自己評価の実施 ④自己点検・自己評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校のエデュケーション・施設の利用 ②学生のボランティア活動 ③公開講座、教育訓練の受託
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

○学校運営の改善

【質問・提言】

特になし

○学科教育活動の改善

【質問・提言】

業界全体が技術者不足であり、海外のエンジニアに仕事を発注することもままある状況である。業界としても留学生の技術者育成を進めていきたいと考えている。

【回答・改善等】

留学生の就職には大きな言葉の壁があり、日本語能力に大きく左右されると感じている。在学中の指導に一層取り組んでいく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
栗田 真志	株式会社ブローバ 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
小上 敏寿	旭電業株式会社 総務部総務課 係長	〃	〃
馬野 信吾	株式会社うまの 代表取締役社長	〃	〃

岡田 一真	平和建設株式会社 代表取締役	〃	〃
西林 淳司	株式会社ナイカイアーキツ 管理部執行役員代理	〃	〃
竹原 満	ユアサエ機株式会社 社長室 次長	〃	〃
杉谷 雅弘	リコージャパン株式会社 デジタルサービス営業本部 岡山支社 岡山第二営業部	〃	〃
重松 敬一	岡山トヨタ自動車株式会社 執行役員	〃	〃
金子 武志	山陽村上モーター株式会社 常務取締役	〃	〃
松下 洋	スズキ岡山販売株式会社 執行役員 サービス部 部長	〃	〃
藪田 尊典	岡山科学技術専門学校 同窓会 会長	〃	卒業生
田中 裕子	岡山科学技術専門学校 学生支援会 会長	〃	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.oist.ac.jp/>

公表時期:令和7年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等に対して、公教育機関としての透明性の確保と説明責任を果たすため、本校の教育活動および学校運営状況等について、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則り、情報を広く公開する。以て、企業等の学校関係者から支持や信頼を得るとともに、適切な情報を提供することにより、高校生等の学校選択の一助となることを基本に、分かり易く見やすい情報発信に努める。

この他、情報提供について他校との差別化を図るため、本校の教育力や教職員の質的レベルの高さを示すものとして教育活動方針ならびに研究紀要を公開し、本校教育の実際の姿を周知する。

以上が、情報提供の基本方針である。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校組織、教育活動方針、沿革、設置学科、学生数
(2) 各学科等の教育	・目指す学科像、育成する学生像、資格取得上の特典等
(3) 教職員	・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・インターンシップ、進路講演会、企業説明会 ・教職員の研修会の参加、研究紀要
(5) 様々な教育活動・教育環境	・広報新聞、技術協議会、展示会、校外研修 ・スポーツクラブ、学生寮の整備
(6) 学生の生活支援	・アルバイトの紹介、教育相談、保護者会、企業後援会 ・同窓会
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・奨学金制度
(8) 学校の財務	・資金収支計算書 ・貸借対照表
(9) 学校評価	・自己点検・自己評価 ・自己評価 ・学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL <https://www.oist.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際情報学科)													
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
○				コンピュータ概論	基本情報処理技術者試験の受験対策としてコンピュータの構造や基礎理論、プログラミングなどについて学ぶ。	1通	136	○			○	○	
○				アルゴリズム	アルゴリズムの学習を通して、数値解析における問題解決法やコンピュータの機能、並びにプログラミング技法等について学ぶ。	1通	136	○			○	○	
○				ネットワーク	コンピュータネットワークの歴史、プロトコルの標準化、TCP/IPの基本的な知識やIPv6への対応技術、及びネットワーク設計等について学ぶ。	3前	34	○			○		○
○				情報セキュリティ	情報システムに必要な情報セキュリティ対策や組織が定めた情報セキュリティ諸規程の目的・内容等について学ぶ。	3後	34	○			○		○
○				資格対策Ⅱ(基本情報)	ITパスポート、基本情報技術者試験合格に向けて、他の科目(コンピュータ概論、アルゴリズム、Python実習等)の学習内容の総復習と答練を行う。	2通	68	○			○	○	
○				資格対策Ⅱ(Python)	プログラミング能力検定合格に向け答練を行う。	2通	68			○	○	○	
○				資格対策Ⅲ(基本情報)	基本情報技術者試験合格に向けて、他の科目(コンピュータ概論、アルゴリズム、Python実習等)の学習内容の総復習と答練を行う。	3通	136	○			○	○	
○				Python実習Ⅰ	Python言語の基礎的プログラミング技法、統合開発環境(IDE)の操作方法、及びアプリケーションの作成方法等について実習を通して学習する。	1通	136			○	○	○	
○				Python実習Ⅱ	データの収集と分析を得意とするPythonを使って、Webスクレイピングを学ぶ。また収集したデータを利用して分析を行い、問題を解決する技術を身につける。	2通	136			○	○	○	
○				HTML/CSS実習Ⅰ	HTMLはWebサイト作成やWeb開発などの基盤であり、最も重要な言語です。書き方や特徴について学ぶ。	1通	68			○	○	○	
○				HTML/CSS実習Ⅱ	HTMLはWebサイト作成やWeb開発などの基盤であり、最も重要な言語です。書き方や特徴について学ぶ。	2通	136			○	○	○	○
○				データベース実習	データベースを管理・運用する技術を学ぶ。正規化を学び、基礎的なリレーショナルデータベースを設計する。あわせてSQL言語を習得します。	2通	136			○	○		○
○				ビジネス日本語Ⅱ(Office)	Microsoft Officeの基本的な操作・使用方法を学ぶ。扱う文書を業務でよく使う形式・内容として、日本のビジネス慣習になれる。	2通	68			○	○	○	
○				システム制作実習	要求分析・設計・実装・テスト・運用といったシステム構築のためのエンジニアリングプロセス全体について学び、それに基づきシステムを作成する。	3通	476			○	○	○	
○				ホームルーム	学生、人としての義務や責任、生き方、人間関係作り等について学ぶ。	1 2 3通	102	○			○	○	
○				社会人基礎	日本での就労を希望する留学生が、日本人と一緒に働くために必要なマナーとルールを身に付ける。	1通	34	○			○	○	
○				ビジネス教養	就職活動への取り組み方、職場でのマナーや態度について学ぶ。	2通	34	○			○	○	
○				一般教養	社会人として知っておくべき、あるいは身につけておくべきマナーや態度、常識について学ぶ。	3通	34	○			○	○	
○				日本語能力試験対策ⅠⅠ	N3レベル相当の聴解および読解試験に十分な日本語力を身につける。同時に身につけた力を社会生活でも運用できるようにする。	1通	68	○			○	○	○
○				生活の日本語	具体的な文脈や場面と結びつけながら、実際のコミュニケーション場面で使える日本語の習得を目指す。	1通	136	○			○		○
○				ビジネス日本語Ⅲ	ビジネスの世界で使われるビジネス用語に困らないよう、ビジネス日本語の「聴く・読む・話す・書く」を鍛える。	3通	68	○			○	○	
		○		日本語能力試験対策ⅠⅡ	N2レベル相当の聴解および読解試験に十分な日本語力を身につける。同時に身につけた力を社会生活でも運用できるようにする。	1後	68	○			○	○	○
			○	Python実践Ⅰ	Python実習ⅠでPythonの基礎的文法を履修し、さらに足場を固めるため、具体的で実践的なアプリケーション(シューティングゲーム)を作り上げていく。	1後	68			○	○	○	
			○	日本語能力試験対策Ⅱ	N1レベル相当の聴解および読解試験に十分な日本語力を身につける。同時に身につけた力を社会生活でも運用できるようにする。	2通	136	○			○	○	
			○	PHP/Web実習	PHPプログラミングとデータベースについて学ぶ。PHP及びデータベースの概念と基礎を理解し、Webページ開発を構築するための技術を身につける。	2通	136			○	○	○	

合計	24科目	2,244単位時間(単位)
----	------	----------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件：次の条件を満たしていること。 (1) 学納金が完納されていること。 (2) 全科目の出席率が内規で定められた出席率を上回ること。 (3) 科目認定率が、内規で定められた割合を上回ること。 (4) 素行が良好なこと。 ○履修方法：全科目必履修。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。